

2022 年度:こども園自己評価の報告書 しんでんこども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育課程 ・ 教育環境の整備 ・ 研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『人とつながり 生きる力の基礎を培う』という教育保育目標のもと、今年度は「一人一人の発達や個性を大切にしながら友達と一緒に楽しめる遊びとは～環境ガイドラインを使って～」をテーマに研究をすすめた。環境ガイドラインを使って園内公開保育をし、職員間で見合い考察した。毎年新任保育教諭が赴任する中、互いの保育を見ながら人的・物的環境を学び合う大切な機会となった。特に「絵本」をピックアップし、講師からの指導を元に絵本の楽しみ方の基礎を学び、絵本の選び方を工夫し環境の中へ取り入れていった。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染対策を取りながら保育を進めてきた。幼児はマスクをつけなくてもよいことになったが、そのことで不安になる保護者とは話し合いを重ね、できる体制を整えた。 ・ 『げんキッズ』で講師を招き、日常の遊びに活かせる運動遊びの指導を受けた。寒い時期でも体を動かして遊ぶことで体力向上を図ることができた。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年 2 回ずつ交通安全教室を実施した。2 月には 5 歳児のみだが警察と市役所から来ていただく形を復活することができ、園庭に模擬道路を作って交通ルールを学ぶ機会を持つことができた。 ・ 7 月に保護者引き渡しの避難訓練を行い、保護者にも危機管理意識を持っていただく機会とした。 ・ 駐車場の混雑を避けるため、荷物の多い月曜日と雨天時に裏門を開放することで近隣からの苦情も減り、安全に登園することができた。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の畑で栽培活動を行った。夏には夏野菜でカレー作り、秋には芋ほりをしてスライス焼き芋、冬には大根煮を作り、全園児で収穫を喜んだ。5 歳児は大根煮で煮干しの頭とはらわたを取る経験をし、命の大切さに触れる機会にもなった。また包丁を使って調理の経験もした。 ・ 保健指導を通して、バランスの良い食事について学ぶ機会を持ち、食べ物と自分の成長を意識していけるようにした。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ対策をしながら、保育参観やプール参観をすることができ、少しの時間だが子ども達の園での様子を見てもらうことができた。写真の掲示やボード等を用いて学年ごとに形式を決め、その日の活動が伝わるようにした。年 2～3 回の個人懇談に加え、必要に応じて話をする機会を持ち、保護者も安心して過ごせるよう努めた。 ・ 運動会、生活発表会では昨年よりも人数を増やした参観の機会を持つことができた。子ども達の成長を保護者と共有することができた。 ・ 地域支援では「こぐまグループ」「2 歳児の育ちの講座」「保育室であそぼー」を感染対策しながら行うことができた。在園児との直接の交流はもてなかったが地域向け掲示板の季節ごとの装飾を在園児が作るなど、間接的に関わる機会を設けた。 ・ 「たけのこちゃん」等に子ども達が交流できるようになることを目指し、職員が参加した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園している子どもの保護者 ・ 地域の子育て家庭 ・ 地域との連携 等 	

<p style="text-align: center;">教育・保育内容</p> <p>・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収まったわけではないが、いろいろな制約が解かれ始め、保育の形を考え直していった。特に異年齢交流では、兄弟学級の交流から始め、2月の生活発表会では全クラスではないが3学年とも見ることができるよう時程を組んだ。子ども達はお話の世界に入りながら、年長児への憧れの気持ちや年少児への共感の気持ち等を持てる機会となった。
<p style="text-align: center;">特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー研修の講師として8月と11月に梅花女子大学の伊丹教授に指導を仰ぎ、支援を要する子ども理解や対応を学んだ。全体で学ぶことで、共通理解して子ども達とかかわることができた。 ・支援学校等巡回相談を受け、こども理解に努めるとともに、会議で共通理解することで職員が同じ対応をしていけるようにした。
<p style="text-align: center;">職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で人権研修を行い、いろいろな角度から人権について考えた。部落問題についても意見を出し合い、意識しながら自分たちにできることなど話し合う機会を持った。 ・できるだけ研修に参加し、実践に繋げていった。また、会議などで報告し学びあえる機会を設けた。
<p style="text-align: center;">幼保こ小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と放課後子どもクラブと連携し、就学に向けて情報伝達を行うことができた。
<p style="text-align: center;">関係者評価の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会を開催し、フェスティバルに参加していただくことができた。温かい言葉をいただき、コロナ禍での現状を交流する機会となった。いただいた意見を職員間で共有した。 ・保護者アンケートの結果を受け止め、次年度の保育をどう進めていくのか職員間で共有し検討していく。
<p style="text-align: center;">その他</p>	<p>消防署の企画で七夕の集いをした。七夕飾りを一緒にしてもらった後、防災の話の聞いたり本物の消防車を横に訓練を見せてもらったりした。園内での避難訓練に加え、消防士に伝えてもらえたことで憧れの気持ちを持つとともに子ども達の防災への意識も高まった。</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育環境の整備	『教育保育環境ガイドライン』の活用を増やし、保育環境の見直しを行っていく。
教育保育内容の発信	ドキュメンテーション等で保育の発信を考えていく。また、コドモンを利用してできることも検討していく。

令和5年（2023年）3月31日
豊中市立しんでんこども園
園長名 大橋 はつえ